

歴史総合、世界史探究

【I】 次の生徒A・Bの会話文を読み，設問に答えなさい。

(資料)

著作権の都合により掲載いたしません。

【出典：『歴史総合 近代から現代へ』(山川出版社, 2024年)60頁】

A: この絵(資料)は有名なアヘン戦争の絵だね。アヘン戦争はイギリスと中国の清との間で起きた戦争だけど，イギリスはどのようにして遠い東アジアにまで進出してきたのかな？

B: イギリスは18世紀後半から産業革命が始まって積極的に植民地獲得に乗り出していて，インドやアジアへの進出も本格的に進めてきたんだ。

A: 清は人口も多かったアジアでは大国だけど，欧米との貿易を受け入れたの？

B: 清は皇帝への朝貢として貿易を認めていて，18世紀の欧米ではお茶の消費が拡大していたから，イギリスは清から大量のお茶を輸入するようになったんだ。

A: その頃のイギリスは清との間でどのような貿易をしていたのかな？

B: X

A: アヘンは麻薬だとわかっていたのに清は対応しなかったの？

B: もちろん清もアヘンを禁止しようとしたんだけど、そのために広州に派遣された林則徐がイギリス商人のアヘンを没収したことがきっかけで戦争が起きたんだよ。

A: アヘンを禁止しようとして戦争が起きてしまったのね。イギリスは早くから工業化が進んでいて軍事力にも影響があったはずだし、この絵を見ても、イギリスと清との力の差は明らかなように思えるけど……^①

B: イギリスをはじめとする欧米では産業革命を経て蒸気機関の利用が普及して、19世紀のはじめには交通手段にも用いられるようになっていたからね。これだけの差があったらアヘン戦争がイギリスの勝利で終わって不平等な条約が結ばれたのはわかるよね。

A: うん、アヘン戦争やその後の第2次アヘン戦争での敗北後、清には重い負担が課されたよね。当時の清の人々は不満に思わなかったのかな？

B: 戦争による増税や銀の価格上昇による負担の増加によって清の民衆の生活は圧迫されたから、民衆の不満は高まったよ。そういう民衆の不満を受けて、キリスト教の影響を受けた洪秀全は1851年に挙兵して太平天国を建て、満州人の清朝を倒して新しい国家をおこすことを呼び掛けたんだ。その後、 Y

A: 良くも悪くも欧米の影響によって清は大きく変化していったのね。ところでアヘン戦争の頃の日本はどんな時代だったのかな？

B: アヘン戦争は1840年に始まったから日本では江戸時代の末期だけど、対外関係でいえば18世紀末頃からロシアから通商を求める使節がたびたび来航したり、イギリス軍艦フェートン号が長崎湾に侵入したりする事件があって、しだいに対外的な緊張は高まっていた時期だよ。

A: 当時の日本は鎖国を維持していたはずだけど、ロシアやイギリスの船が日本近海に来るようになったら無視はできないよね。

B: 1820年代以降にはアメリカ船も日本近海で活動するようになって、その乗組員が水や食料などを求めて日本に上陸する事態も発生したからね。

A：欧米から通商を求めてプレッシャーをかけられ続けたのね。

B：うん、それでアヘン戦争でアジアの大国である清が劣勢であることが日本に伝わると、幕府は日本が欧米からの軍事攻撃を受けてその威信が傷つくことを恐れてそれまでの政策を転換したんだよ。^②

A：でも長年続けてきた鎖国は急にやめられないよね。開国に反対する人も多そうだし。

B：そうだね、1853年にペリーが来航して、1854年には日米和親条約が結ばれてアメリカ船の下田・箱館への寄港などは認められたけど、国書で求められた通商はこのときはまだ認めなかったんだ。

A：通商を認めなかったということは、その時点では完全に開国したわけではなかったのかな？

B：そうだね、その後、第2次アヘン戦争の戦況をハリスから知らされた幕府は1858年に日米修好通商条約を締結したんだけど、通商を認めることは明確に鎖国を放棄することになるから、このとき朝廷は条約を結ぶことを許さなかったんだ。それで尊王攘夷派の動きが活発になって、幕府はさらに追い込まれていくんだよ。

A：朝廷の反対を押し切って日米修好通商条約を結んだ井伊直弼は、尊王攘夷派を弾圧したけれど、それが天皇をないがしろにしたとして反発を招いて、水戸脱藩の志士達に桜田門外の変で暗殺されるんだよね。

B：桜田門外の変の頃は、水戸藩だけでなく薩摩藩や長州藩でも尊王攘夷の傾向が強かったんだけど、Z

A：その頃には幕府の権力は弱まっていたけれど、幕府は公武合体を目指して改革を進めたんだよね。

B：うん。それに対して長州藩は1864年には勢力を回復しようとして京都で幕府側と戦ったりしたりもしたけれど、列強から下関砲台への攻撃を受けて攘夷が不可能であることを悟ったんだよね。

A：戦えば実力の差がわかるものね。それで開国進取に転換した長州藩と薩摩藩は薩長同盟を結んで、明治維新に向かっていったのね。

設 問

1. イギリスと清との貿易に関して、会話文中の X に当てはまる文章として適切なものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。 1

- ア. イギリスは工場制機械工業によって大量の綿製品を製造して清に輸出することによって貴重な銀を獲得することに成功したんだよ。
- イ. お茶の対価として銀が流出するのを避けるために、植民地のインドでアヘンを栽培させて中国に持ち込んだんだよ。
- ウ. イギリスは中国では禁止されていた麻薬のアヘンを清で栽培させてイギリスに密輸したんだよ。
- エ. イギリスは植民地のインドを通して工業製機械工業によって大量に製造した綿製品を清に輸出する三角貿易をおこなっていたんだよ。

2. 下線部 ① に関連して、資料の絵からわかることとして適切なものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。 2

- ア. イギリスは汽走軍艦を含む艦隊で中国側の木造帆船(ジャンク)を攻撃している。
- イ. イギリスの木造帆船(ジャンク)に対して中国側は大砲で攻撃して対抗している。
- ウ. イギリス軍は狭い湾内や河川で自由に動ける帆走艦を駆使して中国側を攻撃している。
- エ. イギリス側も中国側もどちらも汽走艦で戦っている。

3. アヘン戦争後の中国でのできごとに関する説明として、会話文中の に当てはまる文章として適切なものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。

ア. 太平天国は満州により近い北京を占領したんだよ。それで清朝は急激に力を失って漢人官僚が力を持つようになったんだ。

イ. 太平天国に危機感を抱いた清朝は欧米諸国に救援を要請し、太平天国の乱は早々に鎮圧されたんだよ。欧米に借りを作った清朝は1860年に北京条約を結んで天津や漢口を開港したんだ。

ウ. 曾国藩や李鴻章などの漢人官僚が中心となって清朝の正規軍を立て直すことに成功して、太平天国を滅ぼすことができたんだ。彼ら漢人官僚はその後清朝で勢力を拡大し、洋務運動と呼ばれる近代化運動を進めて中国は近代化に成功したんだよ。

エ. 太平天国と戦っている間に第2次アヘン戦争も起きて、清朝は苦境に陥ったんだ。第2次アヘン戦争後の1860年の北京条約で欧米の要求を受け入れて、欧米の助けを得ることができたんだ。

4. 下線部②に関連して、アヘン戦争の影響でそれまでの政策を転換して新たに出された政策として適切なものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。

ア. 禁教令

イ. 寛政異学の禁

ウ. 異国船打払い令

エ. 天保の薪水給与令

5. この時期の日本と外国との関係に関して、会話文中の「Z」に当てはまる文章として適切なものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。 「5」

ア. 長州藩は、関門海峡を通過する外国船を砲撃し、四国連合艦隊に打ち勝ったことから尊王攘夷派がさらに勢力を拡大したんだよ。

イ. 15代将軍となった徳川慶喜は、オランダから顧問団を招いて横須賀に造船所を設けるなどして軍事力の洋式化を推し進めたことから、尊王攘夷派は対抗するのを諦めたんだ。

ウ. 薩摩藩は、生麦事件でイギリス人を殺害した報復として鹿児島湾でイギリス艦隊と交戦したけれど、それをきっかけにイギリスと良好な関係を築いたんだよ。

エ. 幕府は、長州征伐をおこなって尊王攘夷派を抑え込むのに成功し、開国が着々と進められていったんだ。

【Ⅱ】 次の文章を読み、設問に答えなさい。

五代十国時代の後周では第2代皇帝・柴榮が若くして亡くなり、わずか7歳の柴世訓が即位した。キタイ(遼)に後援された北漢の侵攻に不安を覚えた軍人たちは[6]を皇帝に推戴して、柴世訓から禅譲を受けて[6]は皇帝に即位した(陳橋の変)。

960年に北宋を建てた[6]は、柴榮が進めた中国の統一事業を進めた。976年に[6]が急死すると弟が皇帝に即位し、979年に北漢を滅ぼして中国を統一した。

北宋では、唐末から五代十国時代にかけて節度使が軍閥を形成して割拠した反省から、武人の権限を制限して、皇帝の直轄軍(禁軍)の強化を図った。他方で、唐代の門閥貴族による政治を一掃して、科挙で選ばれた文人官僚に支えられた皇帝が政治を執り行うようになった。また、経済面では、江南の開発が進んだ結果、農業生産が向上した。こうした中国南部の経済が大運河で結びついた首都の[7]は経済的に繁栄した。

文治主義と経済的繁栄に支えられた北宋であったが、国際関係は不安定な状態が続いた。北方では、キタイとは燕雲十六州の帰属問題が残されており緊張関係が続いた。西方でもタングート系の[8]が勃興して、しばしば北宋の領内まで侵攻するなど、1044年に和約を結ぶまで不安定な状態が続いた。また、[9]に率いられたツングース系の女真族がキタイから自立して金を建てると、キタイから燕雲十六州を奪還しようとしていた北宋は金と協力した。しかし、北宋からの歳幣の支払いで対立すると、やがて、金は北宋へ侵攻し、北宋の上皇の徽宗と皇帝の欽宗は、捕虜として金の首都・会寧に連行された。こうして、北宋は滅亡したが、南方に逃れた欽宗の弟が、臨安を首都として宋を再興した(南宋)。

設 問

1. 空欄 ～ に入る語として適切なものを、選択肢からそれぞれ1つずつ選び、その記号をマークしなさい。

ア. 朱元璋 イ. 司馬炎 ウ. 趙匡胤 エ. 朱全忠

ア. 長安 イ. 洛陽 ウ. 建業 エ. 開封

ア. 西夏 イ. 突厥 ウ. 匈奴 エ. 吐蕃

ア. 耶律阿保機 イ. 完顔阿骨打
ウ. 大祚榮 エ. 拓跋什翼犍

2. 下線部①に関連して、キタイ(遼)の説明として適切でないものを、選択肢の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。

ア. ウイグル文字の影響を受けた契丹文字を生み出した。

イ. 狩猟民・遊牧民と農耕民を支配したことから、それぞれ部族制と州県制によって納める二重統治体制をしいた。

ウ. キタイ人(契丹人)は猛安・謀克という部族制にもとづく軍事・社会制度によって統治された。

エ. 仏教が信仰され、仏宮寺釈迦塔など多くの寺院が造営された。

3. 下線部②に関連して、科挙制度は隋から始まったとされるが、宋代の科挙の特徴として適切なものを、選択肢の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。 11

ア. 隋唐時代は四書五経といった儒学に関する問題が出題されたが、宋代になると四書五経に代えて工学や経済学が出題の中心となった。

イ. 宋代になると、殿試と呼ばれる皇帝が試験官となる最終試験が行われるようになった。

ウ. 宋代になると、八股文と呼ばれる特殊な文体で答案を書かなければならなくなった。

エ. 隋唐時代には地方で行われる郷試と中央が行う省試があったが、宋代になると省試に一本化された。

4. 下線部③に関連して、北宋から南宋にかけて江南の開発が進んだが、江南の開発の説明として適切なものを、選択肢の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。 12

ア. 「湖広熟すれば天下足る」といわれるようになった。

イ. 干拓やひでりに強い真臘稻が導入された。

ウ. 長江下流域が穀倉地帯となった。

エ. 徐光啓が編纂した『農政全書』などの科学技術書の普及が開発の要因となった。

5. 下線部④に関連して、北宋・南宋時代の経済活動の説明として適切でないものを、
選択肢の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。 13

ア. 専売とされた塩・茶のほか、米や絹を扱う大商人が現れ、行や作と呼ばれる同業者組合が生まれた。

イ. 広州・泉州・明州(寧波)などの港に市舶司が設置され、海上交易が管理された。

ウ. 銅銭が大量に発行されたほか、遠方とは交子・会子と呼ばれる紙幣が利用された。

エ. フン人が中央ユーラシア一帯に築いた通商ネットワークを通じて、イスラーム圏やビザンツ帝国とも盛んに交易がおこなわれた。

6. 下線部⑤に関連して、1004年に北宋とキタイとの間で結ばれた、毎年絹20万疋、銀10万両の歳幣を北宋からキタイに送る代わりに、国境を現状維持することとした和平条約として適切なものを、選択肢の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。 14

ア. 澶淵の盟

イ. 海上の盟

ウ. 慶暦の和約

エ. 紹興の和議

7. 下線部⑥に関連して、宋代ではキタイや金の侵攻を受けて苦境に立ったことなどから、儒教においては華夷・君臣・父子などの秩序が強調されるようになった。この中で、南宋において大成された儒学として適切なものを、選択肢の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。 15

ア. 訓詁学

イ. 考証学

ウ. 朱子学

エ. 公羊学

【Ⅲ】「中世西ヨーロッパ世界」について、次の各文の空欄〔16〕～〔25〕に入る語として適切なものを、選択肢からそれぞれ1つずつ選び、その記号をマークしなさい。

1. 教皇グレゴリウス7世は、クリュニー修道院を中心にカトリック教会の改革運動を推進し、聖職叙任権(聖職者を任命する権利)をめぐる、ローマ王(ドイツ王)〔16〕と対立した。

ア. ルドルフ1世

イ. ハインリヒ4世

ウ. カール4世

エ. ヴィルヘルム2世

2. 11世紀に、聖地イェルサレムを支配下においたセルジューク朝はビザンツ帝国の脅威となった。このため、ビザンツ皇帝は教皇に援助を要請した。この要請を受けた教皇〔17〕は聖地回復の聖戦「十字軍」を諸侯に呼びかけた。

ア. ウルバヌス2世

イ. ヨハネス12世

ウ. クレメンス5世

エ. レオ10世

3. 11世紀から12世紀にかけて、遠隔地貿易が地中海商業圏で始まった。イタリアの港市にはムスリム商人を通じた東方貿易で、エジプト産の小麦・砂糖、アジア産の宝石や〔18〕、中国産の絹織物・陶磁器等がもたらされた。

ア. 石炭

イ. 毛織物

ウ. 綿糸

エ. 香辛料

8. 13世紀末に教皇となった[23]は教皇権の絶対性を主張し、聖職者に対する課税に抗してイングランド(イギリス)国王やフランス国王と争ったが、1303年にフランス国王フィリップ4世によって捕らえられた。

ア. ボニファティウス8世

イ. ヨハネ=パウロ2世

ウ. ピウス9世

エ. インノケンティウス3世

9. 1215年にイングランド(イギリス)では貴族が結束して[24]を国王ジョンに認めさせた。その後、イングランド国王ヘンリ3世がこれを無視すると、シモン=ド=モンフォールは貴族を率いて反乱を起こしてヘンリ3世を捕虜とし、1265年に高位聖職者や大貴族の会議に州・都市の代表を招いて国政を議論した。

ア. 憲法大綱

イ. 権利の請願

ウ. マグナ=カルタ

エ. 権利の章典

10. 8世紀初頭にウマイヤ朝が進出して、イベリア半島におけるイスラーム勢力の支配が始まったが、キリスト教徒は[25]を続け、1492年にナスル朝を滅ぼして約800年かけて[25]が完了した。

ア. クレシーの乱

イ. バラ戦争

ウ. レコンキスタ

エ. コンキスタドール

(問題終わり)